

関係各位

2009年5月21日
(財)博報児童教育振興会
常務理事 米加田 悦夫

< 緊急 >

世界のこども日本語ネットワーク推進事業
第2回海外児童日本体験プログラムの中止について

標記の件、現在日本では新型インフルエンザが拡大傾向にあることから、同プログラムの実施による感染者の発生・拡大を避けるため、5月31日～6月9日で予定しておりました第2回海外児童日本体験プログラムのすべてを、下記の通り中止することといたします。来日を予定されていた皆様、国内で受け入れの準備をいただいた皆様には、大変ご迷惑をおかけすることとなり、また私どもとしても誠に残念であります。現在の状況を鑑み、プログラムの中止についてのご理解をいただきたくお願いいたします。

記

1. 新型インフルエンザの最新の状況

4/23に世界で発表された新型インフルエンザは41の国で1万人の感染者を出し、現在も拡大している。当初想定されていた強毒性ではないものの死者も世界中で80人出ている。

日本では5/8に最初の感染者が確認され、その後関西の高校生を中心に感染が拡大。5/20には東京でも確認されるに至った。現在までの感染者はメキシコ・アメリカ・カナダにつぐ267名、人口密度の高い東京で発生したことで、日本では今後更に拡大する可能性がある。

一方、当初、当プログラムに参加する海外の国と地域には感染者は確認されていなかったが、ここに来てインド・マレーシア・タイでも確認されることとなり、こちらの推移も見守る必要がある。

2. 海外児童日本体験プログラムの特徴

インフルエンザの感染防止には、人出の多い場所への外出を避ける。外出後はうがい手洗いをする。飛沫感染を避けるため周囲の人から1m以上離れるなどの方法があるが、当プログラムは、海外児童の日本での社会体験と、日本の生徒たちとの直接の交流を重視しているため、東京の様々な場所を視察することを始め、学校訪問でのディスカッション～ホームステイなどの密接なコミュニケーション、100名近くが御殿場で集うジャンボリーなど、参加者に感染者が出た場合には、拡大しやすい構造となっている。

3. 社会的な対応、財団の対応の動き

日本での感染拡大に伴い、実際にスポーツイベントやコンサートなどを中止する動きが出てきており、国内外の学校関係者・親が、子供を来日させ、当プログラムに参加させることへの不安は今後ますます大きくなると想定される。

今まで当財団では、招聘者に感染者がいないようなチェック体制をしいていた。今後、潜伏期間後プログラム実施中に発症することなどを考えると、実施をする場合には、実施期間中の感染のチェック～感染者の隔離～治療の体制までが必要となるが、そこまで万全の体制を敷くことは現実的には難しい。

また、感染の拡大次第では、休校～外出の禁止といった措置がとられる可能性もあり、その場合、参加はありえない。

以上を総合的に勘案し、プログラムの実施によって感染者が発生、拡大することを防ぐため、5月31日～6月9日で予定していた第2回海外児童日本体験プログラムのすべてを中止します。

なお、今回の措置は延期ではなく中止とします。今回想定していた交流の機会を今後どうするかについては、検討の上改めて御連絡します。

以 上

問い合わせ先：世界のこども日本語ネットワーク推進事務局
03-3263-8695 担当 寺山・齊藤